

## 国際養鶏養豚総合展を振り返って

2018年5月30日から6月1日にかけて、ポートメッセ名古屋で開催された国際養鶏養豚総合展2018のブースに多数ご来場を頂けましたこと厚く御礼申し上げます。また、5月30日に開催しました「豚胸膜肺炎ワクチンは新たなステージへ」と題したセミナーにつきましては、満席に近い参加者がありましたこと大変幸いです。本当に有り難うございました。残念ながら、ご都合により総合展にご参加されなかった方々、ご多忙により弊社ブースにお立ち寄り頂けなかった方々、セミナーにご出席頂けなかった方々につきましては、当日配布しました資料等が若干ではございますが、残数がございますので、弊社営業担当にお申し付け頂ければ、お手元にお届けさせていただきます。また、その折には営業担当より紹介したデータ等につきましてご説明をさせていただきますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

本号では、開催したセミナーでデータをご紹介したものの資料として配付しなかったスワインテクトAPX-MEを使用した4農場の成績の概要を簡単にご紹介させていただきます。

A農場：水酸化アルミニウムゲルアジュバントワクチン注射群と比較して、スワインテクトAPX-MEを60日齢と90日齢に注射した群では、出荷日齢が若干短縮した上に、出荷時の肺病変スコア及び陽性率が低減した事で生産成績が改善された。

B農場：スワインテクトAPX-MEを50日齢と70日齢に注射した群では、オイルアジュバントワクチン注射群で認められる注射後の発熱は全く認められず、飼料の摂取状況も良好であっただけでなく、全体的な出荷日齢が早まり、平均出荷日齢が2日短縮されたことで、生産性の向上を認めた。

C農場：オイルアジュバントワクチン注射群と比較して、スワインテクトAPX-MEを40日齢と60～70日齢に注射した群では、1日増体重が増加して平均出荷日齢が短縮されただけでなく、事故率及び出荷時の肺病変スコアが低減した事で生産成績が大幅に改善された。

D農場：水酸化アルミニウムゲルアジュバントワクチン注射群では出荷までに抗生物質で治療する機会もあったが、スワインテクトAPX-MEを60日齢と90日齢に注射した群では抗生物質で治療する機会が概ね無くなり、治療経費が大幅に削減できた。

これら4農場の成績から、スワインテクトAPX-MEは安全性が高いだけでなく、生産性の向上や出荷までの免疫持続といった鍵となる有効性も示され、安全性と有効性のバランスに秀でた豚胸膜肺炎ワクチンであることを証明することができました。今後もこのような野外データの収集に努め、本ワクチンの有用性についてご紹介していきたいと思っております。

最後になりましたが、今回開催しましたセミナー「豚胸膜肺炎ワクチンは新たなステージへ」につきましては、Vetpeer Swineのサイトにて、8月25日(土)までご視聴いただけます。ぜひご覧ください。

<https://sw.vetpeer.info/streamings/detail/9>

※視聴にはアカウント登録が必要です。

「国際養鶏養豚総合展2018日生研ブースにて」

